

自己評価 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:(できていない)<80

●達成度は、29年度目標値に対する平成30年1月末の評価値で算出

評価計画							自己評価							学校関係者評価	
学校が果たす役割	中期経営目標	短期経営目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	29年度目標値	28年度	28年度	29年度	29年度	評価	結果(課題)と改善方策について	評価値の元データ	評価	コメント
							評価値	達成度	評価値	達成度					
確かな学力の育成	基礎学力の定着	望ましい学習習慣の形成	教務	望ましい学習習慣の形成と学力の向上 ①授業の始めと終わりの時間厳守、挨拶の徹底と、望ましい授業態度の育成 ②適切な課題による家庭学習の習慣化	(1)望ましい授業態度が身に付いている生徒の割合(昨年目標値95%)	98%	92%	94%	95%	97%	B	生徒アンケート①と②	B	例年昨年度と比較して評価しているが、そもそも高校入学時の学力のレベルが異なる学年を比べていることになるので、その学年の状況に合わせて評価する観点も必要である。その点で考えると、検定の結果、あともう一步で合格のところまで成績を伸ばしている生徒が数十人もいるというのは、今年度も十分頑張ったと評価できる。	
					(2)課題等を提出している生徒の割合	95%	91%	96%	92%	97%	B	校内統計			
		個に応じた教育の推進	教務	TT及び個別指導の実施 ①TT・少人数指導の効果的な実施 ②個別指導の充実	(3)教材や教え方が工夫されていて、授業内容が理解しやすいと感じている生徒の割合	87%	80%	92%	74%	85%	B	生徒アンケート⑥	B		
					(4)朝読書に意欲的に取り組んでいる生徒の割合	95%	93%	98%	89%	94%	B	生徒アンケート③	B		
	専門高校の特色を生かす	商業・情報教育の推進	商業	特色ある商業・情報教育の推進 ①充実した施設・設備を活かした先進的な授業の実施 ②資格取得・検定合格のための指導の充実 ③情報ITフェアの成功とビジネスマナー教育の推進	(5)県商研表彰生徒(1級2種目以上取得等)の割合が3年生(89人)の20%以上	100%	86%	86%	68%	68%	C	校内統計	B		
					(6)情報処理国家試験の合格人数5名以上	100%	140%	140%	80%	80%	B	校内統計			
					(7)情報ITフェアでの経験は自分にとって役立つと感じた生徒の割合	95%	88%	93%	91%	96%	B	生徒アンケート④			
					(8)毎日きちんと学校に登校する生徒の割合(出席率)	99%	99%	100%	99%	100%	A	校内統計			
					(9)遅刻をしない生徒の割合	99%	100%	101%	99%	100%	A	校内統計			
					(10)身だしなみをきちんと整えている生徒の割合	95%	91%	96%	92%	97%	B	校内統計			
豊かな人間性の育成	基本的な生活習慣の確立と学校生活の充実を図る	望ましい生活習慣の育成	教務 生徒 商業	基本的な生活習慣を育成する指導 ①個々の登校状況を把握し、全教員が連携した欠席・遅刻の防止(週2回、月5回以上の遅刻を目安に個別指導実施) ②挨拶の励行(立ち止まって挨拶するよう指導) ③計画的指導にもとづく頭髪・服装規定の遵守、徹底 ④礼法指導の徹底(ウィークスタートの実施)	(8)毎日きちんと学校に登校する生徒の割合(出席率)	99%	99%	100%	99%	100%	A	校内統計	A	生活態度については、望ましい状態を保つことができていると思われる。また、「自信がない」、「自分の良いところを見つけ出せない」という質問は、高校生にとっては低い数字が出てきてもおかしくない項目であり、数字が表すほど低い評価ではないのではないか。	
					(9)遅刻をしない生徒の割合	99%	100%	101%	99%	100%	A	校内統計			
					(10)身だしなみをきちんと整えている生徒の割合	95%	91%	96%	92%	97%	B	校内統計			
豊かな人間性の育成	豊かな人間性の育成と情操・道徳性の涵養	生徒	他人を思いやる心、感動する心の育成 ①生徒会・部活動の活性化 ②上級生が下級生をサポートする仕組み(JS制度)の創設 ③アンケートQU(心理検査)、生活アンケートの実施と活用	(11)自分の居場所があり、人から認められていると感じている生徒(アンケートQUで学級生活満足群に属する生徒)の割合が、54%以上<前年度の本校の値以上53%>	100%	92%	102%	98%	98%	B	アンケートQU結果 本校 53% 全国 36%	A			
				(12)自己肯定感が高い生徒の割合	75%	62%	83%	57%	76%	C	生徒アンケート⑫	B			
				(13)差別や人権問題を自らの問題として捉えている生徒の割合	60%	88%	147%	85%	142%	A	意識調査8				
人権意識の高揚を図る	人権・同和教育の推進	人権・同和教育推進委員会	人権・同和教育の推進 ①生徒の実態に基づいた活動の計画と実施 ②校内外の各機関との連携調整	(14)人権に関わる講演会やLHRの活動が自分を見つめ直す機会になったと感じている生徒の割合	90%	82%	91%	82%	91%	B	生徒アンケート⑦	B			

自己評価 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:(できていない)<80

●達成度は、29年度目標値に対する平成30年1月末の評価値で算出

評価計画							自己評価						学校関係者評価		
学校が果たす役割	中期経営目標	短期経営目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	29年度目標値	28年度	28年度	29年度	29年度	評価	結果(課題)と改善方策について	評価値の元データ	評価	コメント
							評価値	達成度	評価値	達成度					
進路保障	進路指導の充実・強化	進路指導の充実及び定着指導の強化	進路商業総務	望ましい勤労観・職業観の育成 ①LHR等を利用した計画的な進路指導の実施 ②企業見学、インターンシップの実施 ③外部講師を招いた進路ガイダンスの実施 ④ハローワーク、県関係機関等との連携強化 ⑤進路面談の積極的実施と、進路情報の確実な提供 ⑥各種適性検査や学力模試の実施と活用 ⑦修学支援制度の活用推進	(15)在学中に進路決定する生徒の割合	100%	98%	98%	99%	99%	B	就職は好景気に支えられて昨年同様大部分の生徒は順調に内定を得ることができたが、欠席の多い生徒や基礎学力の定着していない生徒は苦戦した。進学については、専門学校を中心に、希望する学校に合格することができた。進路についてのこだわりはある程度持ってはいるものの、自己理解が不足していたり、受験のための準備が遅れがちな生徒もいることは否定できない。今後も低学年から保護者も含めた啓発活動を粘り強く行い、より満足感が得られる進路指導をすることが大切である。	校内統計	A	進学や就職に向けての活動に、生徒が前向きに取り組むように、先生方の一層の働きかけをお願いしたい。今後も今以上の指導を期待したい。
					(16)進路に関する学習や適切な進路指導を受けていると感じている生徒の割合	90%	89%	99%	89%	99%	B	昨年度に引き続き、安来市主催の1年生企業見学ツアーは地元企業や文化等を知るよい機会であった。2年生については、明日しまの予算で各学科の特色や希望に応じた企業・学校見学を行うことができた。企業見学は今年度は2月実施の計画をしたところ、大雪となり中止となった。しかし、地域全体として高校生を育てていく場であり、企業の貴重なアピールの場であるので、3月に再度計画を練り直した。これらの施策を、生徒が今後どのように生かしていくかが大きな課題である。	生徒アンケート⑭と⑮		
たくましく生きるための健康・体力	健康教育の推進	安全で清潔な環境作り	保健	安全点検の実施と校内美化活動の推進 ①安全点検の定期実施 ②清掃指導の徹底 ③教員及び生徒(委員)による校内巡視の実施 ④ゴミの分別収集の徹底	(17)真面目に掃除に取り組んでいる生徒の割合	95%	92%	97%	92%	97%	B	清掃は、教員が清掃担当区域に行き率先して掃除をしたり指導をし、生徒も概ね真面目に取り組むことができた。安全点検を毎学期末に実施し、修繕が必要な個所は事務部に依頼して対応した。時々、教室や廊下にゴミが落ちていることがあるので、「自分のごみは自分で持ち帰る」など環境美化の意識をさらに高めさせる指導をしていきたい。	生徒アンケート⑧	B	貴重品を管理する意識や施錠する習慣が身に付いていないようでは、社会に出てから困ることになるので、厳しく指導して欲しい。 また、家庭での指導も促すと効果的ではないかと思われる。
		健康に関する自己管理意識の高揚	保健	保健に関する啓発 ①生活習慣に関するアンケートの定期実施 ②「保健だより」の発行・「保健ニュース」の掲示による啓発	(18)朝食をとっている生徒の割合	95%	78%	82%	82%	86%	B	生活習慣に関する生徒アンケートの結果では、毎日朝食をとっている生徒の割合は昨年度より4ポイント改善した。他の調査結果も含め学園祭の展示や保健委員会だよりで示し啓発した。引き続き、たよりや指導により根気強く、自分の健康に気を配る生活習慣が身につくよう働きかけをしていきたい。	保健委員会アンケート	B	
		不登校の未然防止	保健	教育相談体制の充実 ①スクールカウンセラーによる教育相談の実施(月1~2回) ②「明るい学校推進委員会」の定期実施	(19)年間欠席日数が30日未満の生徒の割合	99%	98%	99%	100%	101%	A	今年度もスクールカウンセラー事業を活用した。カウンセリングにより、不安や悩みを抱えている生徒の気持ちが前向きになったり、教員や保護者も生徒への対応や支援方法などに関する情報を支援に生かすことができた。明推会もほぼ毎月行い情報交換をし、必要に応じて外部機関のアドバイスを受けながら、支援方法を相談し支援を行ってきた。今後もこれらを継続し、生徒が元気に学校生活を送れるよう生徒に寄り添った指導や支援を行っていききたい。	校内統計	A	
		部活動の活性化	生徒	部活動への積極的参加の促進 部活動紹介や部活動体験期間の内容の充実	(20)部活動に入っている生徒の割合	85%	83%	98%	89%	105%	A	学年会・顧問・部員との連携を図り、部員の確保に努めることができた。しかしながら、退部する生徒も出てきており、辞めないような取り組み(部顧問会の実施頻度を増やす、部長会の実施など)を考えていく必要がある。	校内統計	A	
		安全意識の高揚	生徒	安全に関する自己管理意識の高揚 ①街頭指導(春・秋)の実施 ②貴重品の管理と自転車の施錠の徹底 ③自転車点検の実施(年複数回) ④交通安全指導の実施(交通マナーの遵守) ⑤不審者情報等の情報提供、周知徹底	(21)自転車のマナーを守り、事故防止につとめている生徒の割合	98%	98%	100%	98%	100%	A	自転車の乗車時における警察からの指導については、今年度は数件と他校に比べ非常に少ない状態であった。しかしながら、狭い道路での並列運転や携帯電話の使用、イヤホン使用など、運転時のマナーアップを図る必要がある。	生徒アンケート⑨	A	
				(22)自転車の施錠率	90%	84%	93%	64%	71%	C	2か月に1回1週間の施錠検査を行ってきた。その都度、施錠指導は行ってきたが徹底できなかった。来年度は、今年度以上に、施錠検査の頻度を多くし施錠の徹底を図りたい。	校内統計	C		
				(23)貴重品ロッカーの施錠率	60%			53%	88%	B	今年度から貴重品ロッカーの施錠検査を行った。1学期は委員会並びにJS部員によって、貴重品ロッカーの使用指導を行った。しかしながら、貴重品ロッカーの使用分が分からず使用していない生徒もあり、来年度は使用方法をしっかりと指導し、貴重品ロッカーを使いこなせるよう指導したい。	校内統計	C		
信頼される学校	授業力の向上を図る	学習内容と指導の充実	教務	教科指導力の向上と分かりやすい授業の工夫 ①公開授業・研究授業の実施と互見による教科指導力の向上 ②シラバスに基づいた入念な教材研究と指導	(24)公開授業、授業参観を合わせて5回以上行った教員の割合	100%	97%	97%	100%	100%	A	生徒の授業への取り組み状況を向上させるためには、教員がより良い授業をすることも必要であり、そのためには授業公開や授業参観を行って自らの授業を振り返ることは不可欠である。教員一人一人が自覚を持ち、この数値が自然に上がっていくようになると、生徒の学校に対する満足度も大きく上昇すると考えて、この活動に取り組んでいきたい。	校内統計	A	保護者にきちんと読んでいただけるように、もっとためになる内容や興味をひく内容にするように、努力をお願いしたい。 ボランティアをキャンセルするのは、キャンセルされた側からすると大変な迷惑であり、その点において指導が必要である。社会の中で守らないといけないことは身に付けさせて欲しい。
	地域と連携し、地域に開かれた学校づくりの推進	保護者、地域、中学校との連携の強化・深化	総務	PTA活動の一層の活性化 ①「PTA会報」等の発行 ②HP・携帯電話用HPや文書による学校からの情報提供充実 ③各種研修会等の充実	(25)PTA会報、学年だより等を読んでいる保護者の割合	90%	75%	83%	74%	82%	B	若干下がったが昨年と評価値はほぼ同じくらいである。ホームページやPTA会報誌を読む保護者はまだ多くはないので、ホームページの更新頻度を上げ、最新の情報や生徒の学校生活に関する情報など、関心を持たれる内容を一層掲載するようするとともに、機会を捉えてPRIにも努めたい。	保護者アンケート⑦と⑧		
			総務 生徒商業	地域との連携 ①地域ボランティアへの積極的な参加の奨励 ②安来市主催の催しやその他諸地域の活動への参加	(26)地域ボランティアに参加している生徒の割合 依頼件数に対する参加割合	70%	55%	92%	83%	119%	A	依頼のあったボランティア活動については、積極的に参加することができた。しかし、あるボランティアにおいては、キャンセルをする生徒が多く、大変迷惑をかけた。来年度は、依頼のあったボランティア活動だけでなく、学校側から発信できるような取り組みを考えていきたい。	校内統計	A	
		総務 教務商業	中学校との連携 ①出前授業、招待授業実施②オープンスクール実施 ③中高連絡会の充実と学校説明会への積極的参加 ④部活動での連携⑤小中学校教員対象研修の実施 ⑥合同教科部会、合同公開授業の実施	(27)連携ができたと感じている教職員の割合	75%	73%	97%	79%	105%	A	昨年に比べて評価値が上昇した。中学生対象のオープンスクール、情報ITフェアやブレイブントによる体験学習、教員が中学校に出かけていく出前講座、中高連絡会、中高教員合同の授業研究の実施などにより、連携する機会が増えている。今後も連携を深めていきたい。	教員アンケート⑩			